

水、つなぐ。備える。



水の大切さについて考える
〜出水期に向けて〜

春から梅雨へと移ろうこの季節、私たちの生活に欠かせない「水」が重要な局面を迎えます。

家庭で利用する水道用水だけでなく、この街を支える産業や防災まで、水がもたらす恩恵やその役割はあらゆる場面で実感することができます。しかし、普段当たり前に利用しているからこそ、水のありがたさについて考える機会は少ないかもしれません。

今年には旧市内の重要な貯水源となっている「須賀川ダム」の完成から50周年を迎える節目。ダムや浄水場が果たす役割とともに、生活の営みに欠かすことのできない水資源とその大切さについて改めて考えます。

須賀川ダム建設の経緯

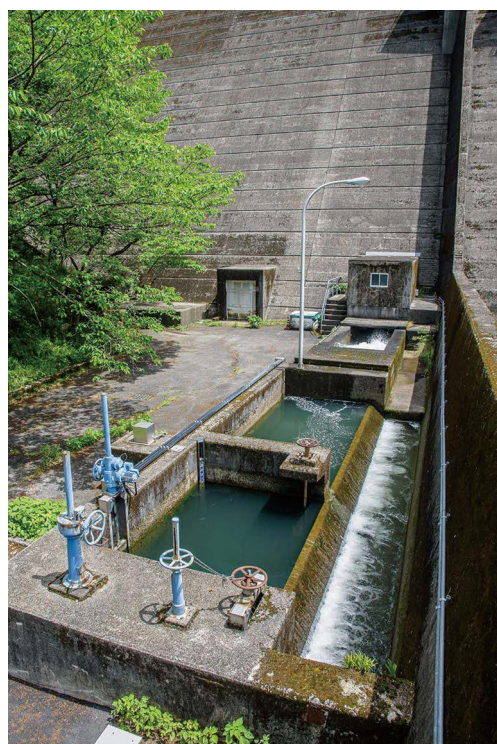
旧市内を流れる須賀川は、昭和18年7月の豪雨による大災害を契機に河川改良事業による整備を行いました。その後も記録的な豪雨の度に頻繁に氾濫し、川沿いでは甚大な被害が発生しました。

また、かつて市内では、ほぼ毎年のように水不足による上水道の断水が発生し、特に昭和39年の冬や昭和42年の夏の干ばつ時は、給水が3～4時間しかない期間が90日以上続くことになりました。さらに、須賀川の下流域では、渇水期に流水が滞留することで悪臭が発生するなど、沿川の環境悪化が問題となっていました。須賀川ダムの建設は宇和島市民にとって喫緊の課題だったのです。



須賀川ダムのあゆみ

昭和44年	現地調査開始
昭和48年	建設工事着手
昭和51年	須賀川ダム完成
昭和60年	異常渇水 (貯水率18・7% (既往最低値) を記録)
昭和63年	ダム周辺の公園整備完了
平成17年	台風14号豪雨 (緊急放流直前までダム貯水位が上昇)
平成30年	西日本豪雨
令和8年	完成から50周年



資源としての水を大切に

愛媛県南予地方局 須賀川ダム管理事務所 所長

山本広紀さん



ダムが果たす役割

須賀川ダムには「洪水調節」「上水道用水の確保」「流水の正常な機能の維持」という三つの大きな役割があります。須賀川ダムの歴史をたどると昭和42年夏に1日3〜4時間のみ給水を余儀なくされるほどの大渇水を受け、安定した上水の供給が求められていたことが建設の背景として挙げられます。ダム完成以降は幸い一度も断水には至っておらず、洪水被害への対策としても機能しています。河川環境の観点では、下流に流水を安定し

て供給し、生態系や良好な河川環境を保全する役割も果たしてきました。

また津島地区の山財ダムはこれら三つの重要な役割に加え、特定かんがい用水（農業用水）の供給を担い、特に春先に必要量の水を放流することで地域の農業を支えています。

出水期に向けて

出水期前には管理事務所の職員を対象に、緊急時の放流操作の再確認を目的とした研修を実施し、市の土砂災害等避難訓練にも参加するなど、災害に備えています。

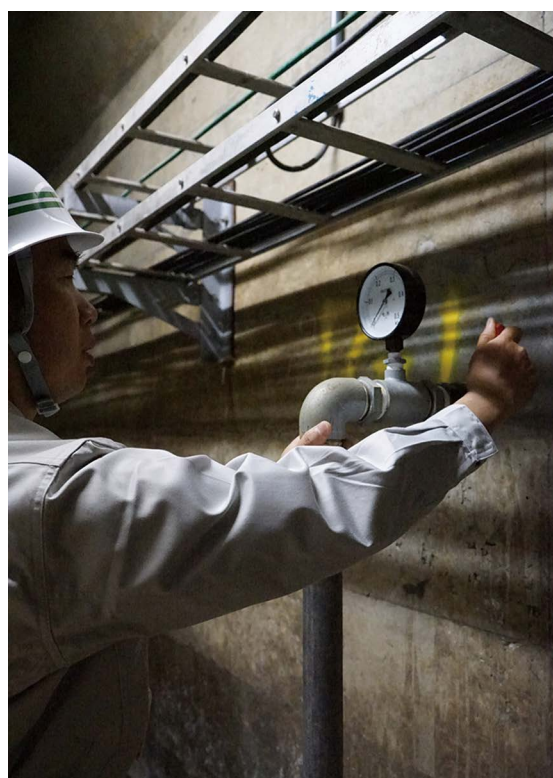
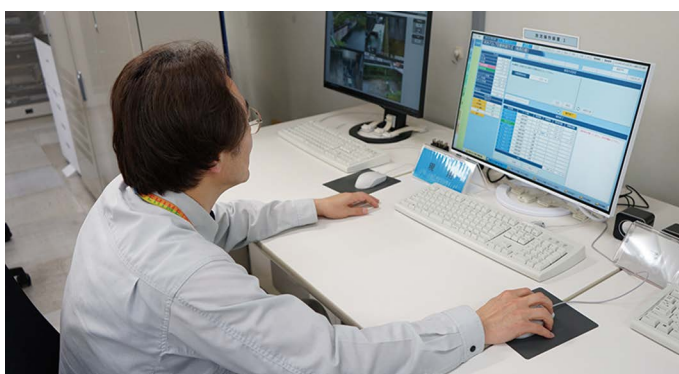
また平成30年の西日本豪雨災害を受けて、令和2年度からはダム貯水池の容量配分に「事前放流水位」を設定し、連続的な大雨が見込まれる場合は事前放流を行うことで洪水被害の軽減を図るほか、南予地方局の職員を対象とした講習会を実施

するなど、被害を最小限に留めるための努力を続けています。

水の大切さ

今年の1月ごろからは例年に比べ降雨量が著しく少なかったことから、須賀川ダムの貯水率は2月25日時点で38・8%という過去4番目に低い数値にまで落ち込みました。

4月以降は降雨量が増えたため、4月末時点で90%超まで回復しましたが、ダムがあるからといって渇水のリスクがゼロになるわけではありません。「水資源」という言葉があるように、水は私たちの生活にとって欠かすことのできない大切な資源です。利用する皆さんには、須賀川ダムや山財ダムの存在を身近に感じながら、水を大切に利用してもらいたいと思います。私たち職員もそういった意識の下、これからも皆さんの生活を支え続けます。



須賀川ダム、半世紀の軌跡を未来へ - 高校生が描くダムカード

ダムカードは、日本全国のダムの魅力を伝えるために作られた公式カードです。各地のダムを訪れた人に無料で配布されていて、裏面にはダムの特徴や技術情報が記載されています。収集を楽しむ人も多く、ダムの魅力を知るきっかけとなっています。

須賀川ダムでは、宇和島市青少年交流センター（通称：ホリバタ）と連携し、地元の高校生が考案した「須賀川ダム50周年記念ダムカード」を制作しました。完成したダムカードは5月29日（金）から須賀川ダム管理事務所と宇和島市観光情報センター シロシタで、1年間の期間限定で無料配布されます。宇和島市の未来を担うクリエイターがデザインしたダムカードをゲットしに行きませんか？

※ダムカードのデザインは、須賀川ダム公式ホームページで公開予定です。



須賀川ダム50周年記念ダムカードの制作にあたって

宇和島南中等教育学校
美術部の皆さん



美術部の活動では、絵・デッサン・イラスト・造形など、さまざまな作品に挑戦しています。

ダムカードは、須賀川ダムを訪れる多くの人の手に渡るものなので、初めはそれに値する仕上がりになるか不安な気持ちも抱えながら制作に取り組みました。制作にあたっては、実際に須賀川ダムへ足を運び、今まで目にしたことのないダムの内部や設備を見学しながら、全体のデザインをイメージしました。水彩画ならではの色の優しさを残しつつ、ダムのイ

ンパクトが伝わるよう、遠くに映る宇和島の街並みのトーンを抑えるなどの細かな工夫を凝らししました。普段あまり使用することのないカラーコード（コンピュータなどが色を識別するための符号）には苦戦しましたが、宇和島高等学校の写真・新聞部の皆さんと協力しながら、須賀川ダムの魅力が存分に伝わるカードが制作できたと思います。

宇和島高等学校
写真・新聞部の皆さん



写真・新聞部では、学校行事や運動部の写真撮影などを行っています。

今回は普段の学校生活では関わる機会の少ない大人たちや他校との共同制作ということで、慣れない環境での緊張感もありましたが、打ち合わせを重ねるごとに宇和島南中等教育学校の美術部の皆さんとも打ち解けて、楽しく制作を進めることができました。

主にカード裏面のデザインを担当しましたが、ダムの情報に加えて、制作したメンバーからのメッセージも記載しました。また、他のダムカードにはない私たちならではの色味やフォント、テキストの配置など、細部までこだわりを持って制作したので、これまでダムカードの存在を知らなかった人にも手に取ってもらいたいです。

これまで取り組んだことのない企画や交流活動は、これからの学校生活にとっても特別で貴重な経験になりました。



身近なところから節水の心がけを

上下水道局給水課 給水係長 廣澤功一さん



浄水場の役割

浄水場は、河川や地下水などの水源から取り入れた水を皆さんが飲料水として安心して使えるように安全な水質に処理する重要な施設です。その役割は、単に皆さんの家庭へ水を供給するだけでなく、衛生面や品質を確保することにあります。

老朽化する設備の維持・更新や、近年の気候変動による水温変化への対応、さらには新たな水質基準項目への対応が求められていて、これらの課題に取り組みながら、安全な水の供給を目指して

います。

水道週間の取り組み

毎年6月1日～7日は全国で水道週間と定められています。この期間中、上下水道局では市役所に懸垂幕、公民館などの公施設にはポスターを掲示するほか、ダム周辺の清掃活動を行っています。私たちの生活に欠かせない「水道」というインフラが、毎日の暮らしを支えていることを改めて知ってもらえる機会になればと考えています。

水道用水の大切さ

生活の中で当たり前のように使っている水ですが、その水を供給するためには、上下水道局職員だけではなく、給水装置工事事業者の皆さん、窓口業務を行っている皆さん、浄水場の運転管理を行っている皆さんなど、民間企業の活躍や水資源の保護が欠かせません。

水道事業者として、安心して水を利用してもらえるよう、これからも努力を続けていきますので、身近なところから節水の心がけを持って水を大切に利用してもらえればと思います。



ご家庭でできる節水事例

節水を意識して、こまめな蛇口の開閉をお願いします。1分間流しっぱなしにすると、約7ℓの水が無駄になります。

水洗トイレ

流すとき、いつも「大」と「小」を「大」を使う → 「大」と「小」を使い分ける

8ℓ → 6ℓ

2ℓの節水

歯みがき

水を流しっぱなし → 水をコップに汲む

3ℓ → 0.5ℓ

2.5ℓの節水

お風呂の残り湯

半分を洗濯や散水等に再利用する

200ℓ → 100ℓ

100ℓの節水

シャワー

10分間シャワーを流しっぱなし → こまめに止めて5分間の使用に

70ℓ → 35ℓ

35ℓの節水

洗車

ホースで流しっぱなし → バケツ洗いで行う

90ℓ → 30ℓ

60ℓの節水

台所

水を流しっぱなし → 汚れをふき取ってから漬け置き洗いをする

60ℓ → 20ℓ

40ℓの節水

『第68回水道週間』

水道は、私たちの生活に不可欠な水を安定的に供給する施設であり、生活基盤として欠かすことができません。水道事業者などをはじめ、国土交通省、環境省、都道府県、水道関係団体では、より質の高い、安全で良質な水を安定的に供給するため、さまざまな取り組みを行っています。

期間：6月1日～7日まで

スローガン：「たいせつな 水道守ろう 未来へと」

引用：国土交通省ホームページ



私たちが利用している水は、水源保全や水道事業者をはじめ、多くの関係者のためめ、努力によって届けられています。しかし、水は限りある資源であり、それを絶やさず未来へつないでいくには私たち一人一人の意識と日々の小さな行動が不可欠です。

これから迎える出水期に向けても、防災意識を高め、集中豪雨や洪水などの災害に備えていきましょう。

